

祝 ソチ冬季 オリンピック & パラリンピック 出場



鈴木猛史

Suzuki Takeshi

(町内蟹沢出身)

Profile すずき・たけし
駿河台大職員
1988年5月1日生まれ
町内蟹沢出身 猪苗代高卒
小学校2年生の時に交通事故に遭い
両足を失う。翌年チェアスキーと出
会う。
前回のバンクーバーパラリンピック
では、大回転座位で銅メダルを獲得。
得意種目は回転
2011/12 シーズンW杯年間総合2位
2012/13 シーズンW杯年間総合優勝



町の壮行会で前後町長から激励金を受け取る
星野選手(右)と遠藤選手(中央)



町役場での壮行会で花束を受け取り、激励を受ける鈴木選手(左)

町役場などで壮行会を開催

ロシアのソチで開催される冬季オリンピック男子モーグル代表に遠藤尚選手、女子モーグル代表に星野純子選手が決定。同じく冬季パラリンピック男子チェアスキー代表に鈴木猛史選手が決定しました。

本町ゆかりの3選手がオリンピック・パラリンピックの舞台に挑むということで、町中に応援ムードが高まっています。

1月23日には、町役場で遠藤尚、星野純子両選手の壮行会を開催。2月3日には、同じく町役場で鈴木猛史選手の壮行会を

開きました。

壮行会では選手たちが大会に向けた意気込みを語り、関係者からは激励の言葉が送られました。また、町や関係者などから激励金や花束が贈呈されました。

壮行会は、遠藤選手の所属先、忍建設近くの仙台市や星野選手が勤務先するホテルリステル猪苗代でも開催。集まった大勢の関係者が五輪での活躍を祈りました。

この広報が皆さんの手元に届く頃には、オリンピックのモーグル競技は終了していますが、3月1、2日には本町でフリースタイルスキーW杯福島猪苗代大会が開催されます。また、3月7日には鈴木猛史選手が出場するパラリンピックが開幕します。

猪苗代から世界にはばたく3選手の活躍を、みんなで応援しましょう。

オリンピック・パラリンピックの出場を前に意気込みを語った3選手のインタビューを紹介します。

トリノ、バンクーバーに続き、3大会連続での冬季パラリンピック出場を決めた鈴木選手。

町の壮行会では「世界の舞台で戦えるのは皆さんのおかげ。福島、猪苗代の環境があつたから、今こうして戦えている。この町に生まれた誇りを胸に、ソチでは一生懸命頑張ります」と抱負を語りました。

鈴木選手インタビュー
— 3度目のパラリンピック。肉体面、精神面での今までの違いは

「バンクーバーの時より体を絞れている。精神面では、前回とは違って気持ちの切り替え方もわかる。平常心で臨めればメダルを取れると思う」

— 現在の調子は

「調子はいい。このまま好調を維持し、イタリアのW杯で最終調整をしてパラリンピックに臨みたい」

— 被災地、福島代表としての意気込みを

「震災後、暗いニュースが多い。自分がメダルを取ることによって皆さんの気持ちが明るくなるのであれば、頑張りたい」

— 町民の皆さんにメッセージを

「今は埼玉にいますが、猪苗代が大好きだという気持ちは変わりません。ここまで強くなれ



壮行会には大勢の町民が激励に訪れた



会津磐梯山エリアを世界に発信

遠藤、星野両選手の町壮行会に先立ち、スキーリゾートふくしま創造会議と両選手がスポンサー契約を締結し、町役場で記者会見を開きました。同会議は、本県ゆかりの選手と契約を締結し、地域が一体となってモーグルトップ選手を支援するとともに、ウェアに貼り付けた「絆 会津磐梯山エリア」の文字入りワッペンで、地域の認知度アップを図ります。W杯を転戦する2人が、世界に磐梯山エリアを発信します。

たのも、皆さんのあたたかい応援のおかげです。町を元気にするために、一番いい色のメダルを持って帰ってきたいと思えます」

前回大会のバンクーバーでは、冬季パラリンピックで県勢初のメダルとなる銅メダルを獲得した鈴木選手。より輝く色のメダルを目指し、3度目の大舞台に挑みます。

【大会日程】※鈴木選手出場種目

- ・8日 ダウンヒル
- ・9日 スーパーG
- ・11日 スーパーコンビ
- ・13日 スラローム
- ・15日 ジャイアントスラローム



遠藤 尚

Endo Sho

(町内渋谷出身)

Profile えんどう・しょう
忍建設スキー部所属
1990年7月4日生まれ
町内渋谷出身 猪苗代高卒
3歳からスキーを始め、小学校5年生でチームリステルジュニアに所属。本格的にモーグルを始める。猪苗代高時代から日本代表としてW杯に出場、世界を転戦する。バンクーバー冬季五輪7位
2011/12 シーズンW杯総合8位
2012/13 シーズンW杯総合6位
今季W杯総合4位 (1/23 現在)



初めて臨んだ前回のバンクーバー冬季五輪で日本男子モーグル勢過去最高の7位入賞を果たした遠藤尚選手。あれから4年、年を重ねるごとに着実に力を付け、昨シーズンはW杯世界ランク6位を記録。若きエースとして日本勢をけん引するまでに成長しました。

町の壮行会では「金メダルを取るために、この4年間準備をしてきました。自信を持って、しっかり滑ってきたと思うので応援よろしくお願いします」と抱負を語りました。

遠藤選手インタビュー
―冬季五輪出場が決まり、今の心境は
「ほっとした部分はあったが、今回は前回のバンクーバーの時

とは違って、出ることが目標ではなく、メダルを取ることを目標にしてきた。(いよいよ)オリンピックが始まったという気持ち」

―ライバルは
「特に意識したことはない。自分で追い込んでだけ耐えられるかということを課題に滑っている」

―自分の滑りのどんなところを見てほしいか
「得意にしているジャンプとスピード。ジャンプの大きさや他の選手とのタイム差などを見てもらいたい」

―自分にとって猪苗代はどんな存在か
「猪苗代は自分が育ち、モーグルと出会った特別な場所。帰省した時には多くの人があたたかい声を掛けてくれて、とても感謝している。猪苗代出身者としてメダリストになるんだという気持ちでいる。みんなあたたかく見守ってくれているので、今までやってきたことを町の人たちに見てもらいたい」

現在、W杯ランキングで4位と好調をキープしている遠藤選手。福島猪苗代大会での活躍も多いに期待されます。世界トップレベルのスピードとエアは必見です。

星野純子

Hoshino Junko

(チームリステル)

Profile ほしの・じゅんこ
チームリステル所属
1989年9月25日生まれ
新潟県長岡市出身 新潟大卒
高校生の頃からリステルスキーファンタジアでモーグルの練習を重ね、2012年4月、ホテルリステル猪苗代に入社。勤務しながら練習に励む。2013 W杯福島猪苗代大会ではモーグル、デュアルモーグルの2種目で決勝に進出
今季のW杯第6戦で初の3位表彰台を経験



カナダ・バルセントコムでの今季W杯第6戦で自身初となる3位表彰台を経験した星野選手。同時に初めての冬季五輪の切符を手に入れました。

町の壮行会では「初めてのオリンピックですが、気負わずにのびのびと自分の滑りができればいいと思っています。お世話になった人への感謝を忘れず臨みたいと思います。応援よろしくお願いします」と抱負を述べました。

星野選手インタビュー
―初の冬季五輪出場が決まり、今の気持ちは
「最初は信じられなかったが、今は実感もわいてきた。気持ちを引き締めて、しっかり滑りたいと思う」

―オリンピックまでの道のりはどんな道のりだったか
「今回は選考基準が厳しかったので出られるかどうか本当にわからなかった。一試合、一試合いい滑りをしようと滑った結果、出場につながった」

―被災地から出場する選手としてどんな滑りをしたいか
「オリンピックで元気の滑りを見せて、子どもたちにも興味を持ってもらいたい。少しでも雪の上に立つ子どもを多くしたい」

―町の皆さんに対する思いは
「猪苗代に住んでまだ2年目なのに、町の皆さんにはとても親切にしてもらっている。中には自分の子どものようにかわいがってくれる人もいて、とても感謝している。今回オリンピックで活躍することで、恩返しができるばと考えている」

オリンピック直前のW杯で自身初の表彰台を経験。冬季五輪の代表となり、一段と知名度が上がった星野選手。持ち前のピュアスマイルで人気も急上昇中です。

昨年のW杯福島猪苗代大会ではモーグル、デュアルモーグルの2種目で決勝に進出。ホームゲレンデで再び開かれるW杯での活躍に期待が高まります。